

知事随想



長崎県知事

中村 法道

交流で拓く長崎の未来 知事就任二年目に当たって

この一年を振り返って

三十七年間勤めた県庁に知事として初登庁し、この三月で一年になる。あつという間の一年であり、プライベートの時間が少なくなるなど、生活が一変した。離島で勤務していた頃に始めた家庭菜園も今はできず、大変残念だが、私はこの長崎県が好きであり、県のために仕事ができることを嬉しく思っている。

「青空知事室」で県内の各市町に向き、県民の皆さんの生のお聞きした。厳しい経済状況の中、「雇用の確保や福祉の充実を始め、皆さんの切実な思いや悩みを直接お聞きして、知事としての責任の重さを改めて実感した。

何とかこの思いに応えようと、経済・雇用対策に最優先で取り組み、新卒者を含めた若年層の雇用対策、地場企業の資金繰り支援や企業誘致に汗をかいた。乳幼児医療費の現物給付を始め、福祉、医療、子育て支援策など県民の暮らしの充実にも努めてきた。

そういう中で、長崎キャノンの操業開始やANAのコールセンター着工など嬉しい話題もあったし、この四月からは、ほぼすべての市町で乳幼児医療費の現物給付が実施される。

印象深かったのは、NHK大河ドラマ「龍馬伝」。県もタイアップして長崎の魅力を情報発信した。お陰で全国から多くの方々に来ていただいたが、この龍馬伝効果をいかに持続させるかが今後の課題である。そして、上海航路の復活。佐世保市にあるハウステンボスが、長崎と上海間の定期航路の開設を打ち出された。これが実現すれば中国人観光客が飛躍的に増加する。是非とも、これを長崎県の活性化につなげていきたい。

二年目に向けて

今年には長崎県総合計画のスタートの年だ。私が選挙戦を通して訴えてきた「人が輝く、産業が輝く、地域が輝く長崎県」が基本理念である。人を大切にする県政の推進を基軸に据え、本県の総合力を結集して、産業や地域づくりには大きな役割を担う人づくりに取り組むことも

に、一人ひとりをきめ細かく支える施策の充実に力を注ぎたい。

とは言え、依然として県内の経済・雇用情勢は厳しい。今年もまた、経済・雇用対策が最優先の課題である。国の経済対策も有効に活用しながら、県内の経済活性化と雇用の確保に向け、引き続き、全力で取り組む。

また、諫早湾干拓潮受堤防の開門問題、九州新幹線西九州ルートの整備促進、石木ダムの推進など県政の重要課題には、県民の利益を最優先に考え、しっかりと取り組んでいく。

交流で拓く長崎の未来

「龍馬伝」の放送も終わり、九州新幹線鹿児島ルートが全線開業し、本県への観光客の減少が懸念される中、中国を始め東アジア地域では高い経済成長が持続している。これからは、より一層、人流、物流両面での交流拡大が重要になってくる。

ここが正念場と思いい、アジアの活力を取り込んで本県経済の活性化を図る「アジア・国際戦略」を策定した。海外からの観光客の誘致、県産品の輸出拡大、本県企業の国際化の支援、国際的な人材の育成・確保など、県を挙げて戦略プロジェクトを推進する。

中でも、最優先で取り組むのが「上海航路復活」プロジェクトである。古くから中国との交流の中で発展してきた長崎が、再び、日中交流のゲートウェイとして発展する千載一遇のチャンスである。市町や民間団体とも協力し、船内での本県のPRや県内各地でのおもてなしの展開など、日中交流の促進と本県の活性化に向け、積極的に取り組む。

また、今年は辛亥革命百周年に当たる。革命の中心人物・孫文を支えたのは本県出身の梅屋庄吉である。彼に光を当てた「孫文・梅屋庄吉と長崎」プロジェクトを推進し、長崎歴史文化博物館での企画展やシンポジウムの開催、中国におけるプロモーションなどさまざまな情報発信を展開して、国内外からの観光客誘致を進めたい。

さらに、本県の大きな魅力が「食」である。本県は食材の宝庫であり、市町とも共同して「食」と歴史文化などの地域資源を融合させた多彩なイベントを県内全域で開催したい。これに合わせた旅行商品も造成して、観光客の誘致拡大を図る。

この「来てみんね！長崎『食KING王国』」の取組みを始め、昨年から取り組んできた2011交流拡大プロジェクトを上海航路や梅谷庄吉のプロジェクトとも連携させながら、更にパワーアップして推進していきたい。

